

# 永井・寺内両氏の最新作「史脈瑞應」し みやく ずい おう

「じつを言うと、同人誌仲間となつてこのかた永井さんとじっくり語り合ったことがないのである。歴史小説から仏教へと浸透してきた永井さん。仏教から歴史へ向かった私。

遠い昔の話だが、司馬遼太郎くんの提唱で「近代説話」では同人仲間の作品を語るのは一切厳禁であった。各自の個性を摩滅しかねないからであろう。今そのタブーを犯して、同志永井路子さんと語り合える喜びを老骨の全身で味わい尽そうとしている。」

（史脈瑞應の「同人の戒めを犯す（はじめに）」より 寺内大吉）「史脈瑞應—近代説話からの遍路—」という本が出版されました。著者は寺内大吉氏と古河市の名誉市民である永井路子氏で、内容は両氏の生い立ちから近代説話まで、そして直木賞受賞・仏教文学・仏教と日本人というテーマで書きおろしと対談から成っています。

二人は「近代説話」の同人仲間、直木賞受賞作家です。そしてともに仏教文学を執筆しています。また、大正大学で寺内大吉・永井路子の両氏が学んでいること（永井氏は聴講生）も共通して

います。

以前にこの文学館通信で紹介しましたが、昭和30年、当時無名の文学青年だった寺内大吉氏と司馬遼太郎氏の二人の会話から、文壇に新風を起すことになった「近代説話」という同人誌が誕生します。昭和32年5月に創刊号が出版され、不定期に刊行、11号まで出版されましたが、その間に司馬遼太郎、寺内大吉、黒岩重吾、伊藤桂一、永井路子の各氏が相次いで直木賞を受賞しており、数年間の同人誌活動でこれだけ多くの直木賞作家を輩出したケースは空前絶後でした。

昭和35年「近代説話」に掲載した「はぐれ念仏」で第44回直木賞を受賞した寺内大吉氏と37年同人となり同誌に掲載した「炎環」で第52回直木賞を受賞した

永井路子氏が今回はじめてタブーを犯して互いの作品を語り合い、仏教文学の真髄に迫ります。永井路子氏の幼い日の写真やエピソード、ペンネームのいきさつなども書かれています。読書の秋にぜひお読みになってはいかがでしょうか。古河市内の本屋さんで既に販売されています。



「史脈瑞應」大正大学出版会刊定価1,995円